

ホームシアター向け立体音響システムの販売動向 ドルビーアトモ対応AVアンプが過半へ

GfK ジャパン(東京: 中野区)は家電量販店におけるホームシアター向け立体音響システムの販売動向を発表した*。

【概要】

・2016年1-9月におけるドルビーアトモ^{※1}対応AVアンプの販売台数は前年同期の2.4倍。AVアンプの55%へ。

【販売拡大が続くドルビーアトモ対応AVアンプ】

ホームシアターシステムを構成するオーディオ製品の中で要となるAVアンプ。ここ数年で、従来の水平方向のサラウンドに垂直方向の音声を加えて立体音響を実現するAVアンプの販売が拡大している。

立体音響の主要なサラウンドフォーマットであるドルビーアトモは、立体音響を楽しめる新しいフォーマットとして2012年に発表され、映画館への導入が進んでいる。ホームシアター向けには2014年にドルビーアトモ対応のAVアンプが発売され、以降製品ラインナップが増えている。2016年1-9月の家電量販店におけるドルビーアトモ対応AVアンプの販売モデル数は40を超え、販売数量は前年の2.4倍、金額は1.7倍と拡大傾向にある(図1)。

AVアンプにおけるドルビーアトモ対応モデルの構成比は数量ベースでは前年同期の21%から55%へ、金額ベースでは40%から72%へ上昇した。背景には15年夏以降に手ごろな価格の製品が相次いで発売されたことがあり、2014年では10万円を超えていたドルビーアトモ対応AVアンプの税抜き平均価格は、2016年1-9月では72,800円となった。

【DTS:Xへの対応も進展】

ドルビーアトモとは異なる立体音響サラウンドフォーマットであるDTS:X^{※2}への対応も進む。対応は主にファームウェアのアップデートとなるが、2016年1-9月におけるDTS:X対応AVアンプの構成比は、数量ベースで40%、金額ベースでは51%に達した(図2)。

【スピーカーやコンテンツの広がり】

立体音響は天井方向からの音を必要とするためスピーカーの設置ハードルが高い。しかしながら、天井に音を反射させて垂直方向の音を実現させるイネーブルドスピーカーや、ドルビーアトモに対応したサウンドバーなど、設置面の課題に対応した製品が増えつつある。コンテンツも拡充しており、14年に3タイトルであったドルビーアトモ対応Blu-ray discは16年9月末時点には50タイトルを超えた。製品選択肢の増加と手軽さの向上により、縮小が続くホームシアター市場の需要喚起につながるかが注目される。

図1. ドルビーアトモ対応AVアンプ販売推移

(指数値: 2015年1-9月の数量・金額を「100」とする)

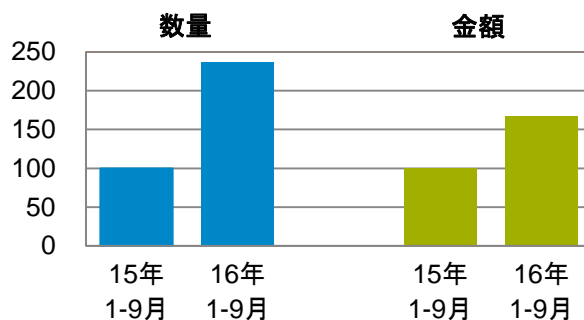
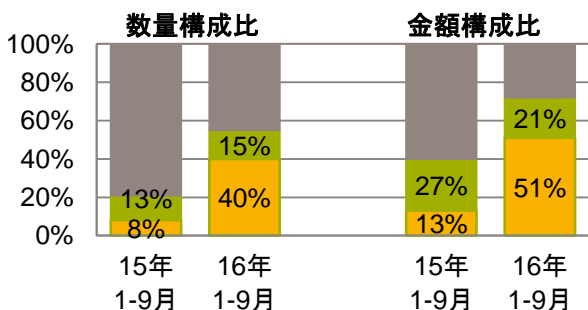


図2. AVアンプ ドルビーアトモ、DTS:X対応モデルの販売構成比

■ ドルビーアトモのみ ■ ドルビーアトモ + DTS:X



※. 全国の家電量販約4000店の販売実績(POSデータ)を集計した調査に基づく。

※1. 従来の水平方向のサラウンド表現に加えて天井スピーカーを使用することで立体的なサラウンド表現を可能にする。16年9月30日時点でファームウェアアップデート対応製品を含む。

※2. ドルビーアトモと同様に立体的なサラウンド表現を可能にする。16年9月30日時点でファームウェアアップデート対応製品を含む。

※本リリースに関するお問い合わせ先

GfK ジャパン
広報グループ 茶野 絢子
tel : 03-5350-4632 Email : info.jp@gfk.com